

■ 令和3年度川崎市教科用図書選定審議会各教科別意見等一覧

|                   | 学識者分科会  | 校長分科会   | 保護者分科会  |
|-------------------|---|---|---|
| 中学校社会科<br>(歴史的分野) | <ul style="list-style-type: none"> <li>●課題意識を持ち、意識を高めて学習に入ることがとても大切である。</li> <li>●教育出版は、章のはじめに問いがあり、ページごとに確認があった。キーワードを元に、字体を表す言語活動にとっても役に立ち、ページごと、節、章ごとに、年表や資料やキーワードを元に解決していくという手順になっているということでした。</li> <li>●自由社は、章の終わりに、大きなまとめがあり、教科書のページのそれぞれのところに小刻みに問いがたてられており、全て通し番号がついている。こまめに考えることができる節や章での問いを解決していく、小さいことを積み重ねられるということも大切だが、大きいスパンでまとめるということも、生徒によって、どちらが得意か、どちらがより力が活かせるか、というところの違いによってくるのではないか。</li> <li>●SDGSは、事例地として川崎が未来都市として扱われているのが教育出版だった。</li> <li>●歴史の学習だが、地理や公民等の関連も大きく入っており、ひとつひとつを深く考えるのも大事だけれども、色々なことと関連付けて考えられることも大切で、それが多面的、多角的な考えとなっていくのではないか。</li> <li>●どちらの教科書も写真が大きく見やすく、子どもたちがひきつけられやすい魅力的なものとなっている。資料の提示方法は社会科においてはとても大切である。</li> <li>●教育出版に二次元コードが入っていた。社会科の資料として、全てを教科書の中に入れることは、かなり厳しいことなので、二次元コード、QRコードの有無が、深い学びに繋がっていき、またそこから新たな課題を見出すきっかけになるので、教科書が立体的になるという面では、二次元コードが入っているほうがよい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●歴史的認識の違いというのが表れているというのは、否めない印象である。</li> <li>●覚えるための学習ではなく、大きい課題の中で、目標をもって学んでいく、この章では何を学ぶのか、これから何を学んでいくのか、どのような問題を解決していくのか、そういう点では教育出版である。</li> <li>●小学校の接続という面でも、教育出版が優れているのではないか。</li> <li>●自由社は、一時間一時間の課題が示されていて、そこは良い。</li> <li>●事例地として川崎市が取り入れられているという点では、学習を身近に感じることができるという点で、教育出版をあげられる。</li> <li>●高校と同じようにICTの観点から二次元コードのリンクが張られているということも教育出版をあげられる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●歴史という教科はどうしてもぶれが出てきてしまうということ。内容について少し受け取り方が違ってくるのではないか。</li> <li>●印象として、教育出版の教科書の方は、正確さというところ、歴史の正確さというところがある。</li> <li>●自由社の方は、歴史に対する姿勢を示しているという感じがした</li> <li>●二つの教科書を比べてみると、例えば近隣諸国への配慮した表記の違いだとか、歴史的な事実の中で、例えば渡来人のことだとか、そういうところの表現が少し真逆なところがあり、切り口とかとらえ方によってちょっと違いがある。</li> <li>●(指導主事から中学校での学び方の説明。単元の中で、問いを冒頭つくっていきながら、子どもが自分で問いを解決していくという流れと、最後に時代を振り返っておさえるという流れを説明)自由社の教科書については、下に年表がついているので、これを見ながら自発的に学んでいけそう。</li> <li>●歴史はどうしても後から追いかけるという形になってきているので、先を振り返るきっかけになるのは、自由社があげられる。</li> <li>●観点の中にSDGSが取り入れられていたが、歴史という教科的に、SDGSはそぐわない気がする。</li> </ul> |
| 高等学校              | <ul style="list-style-type: none"> <li>●令和4年度から学習指導要領が変わることから、教科書の形、教科書の編成の変更が大きくあった。</li> <li>●国語では、現行学習指導要領で必履修科目の「国語総合」から、新学習指導要領では、実社会における話し合いや論述等に必要国語の能力の育成を目指す「現代の国語」と、万葉集の時代から近現代につながる我が国の言語文化への理解を深める「言語文化」という必履修科目に変わるが、このことによって、現代国語で論説や実用的な言葉をしっかりと学び、また、古典的なものは文学的なものとして、より理解を深めるために学べるようになる。</li> <li>●家庭科の教科書も編成が大きく変わり、成人年齢が下がったことで、消費者教育等も多く取り入れられているところがよい。クレジットカードも高校生が作れるようになるので、そういった消費者の教育は大切。</li> <li>●社会科は、従軍慰安婦や強制連行などの言葉が入っているところもあるが、ひとつの言葉に引きずられるのではなく、全体を見て、子どもたちに大きな流れを学んでもらうことを考えて教科書を選ぶ必要がある。</li> <li>●学習指導要領が変化する中で、時代によって求められることが変わっていくので、教科書も変わっていくが、高校の教科書は学校の特徴をいかして、目の前にいる生徒の育てたい力をしっかりと見極めて、高校の中でも違う教科書をしっかりと選んでいくということが大切である。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●新学習指導要領ということが教科書を見て一目でわかるという改定である。</li> <li>●教科書が変わったから、授業が劇的に変わるという訳ではない。教科目標の変化というものが、教育現場に染み込むには、何年か時間がかかるかもしれない。</li> <li>●各高等学校の採択の観点を見ると、多くの学校が、基礎基本をうたっているという現状があり、そのことに本市の実態を感じていると。</li> <li>●教える教員が、学習指導要領に沿った教育目標に迫っていくということが、時間がかかっても重要である。</li> <li>●指導要領に沿って、調査・探求、身近な現代の課題などが、多く、どの教科書にも取り上げられている。</li> <li>●ICTに対応した二次元コードだが、どの教科書にも載っているが、リンク先、その中身は会社によってまだバラつきがある。コンテンツの方はまだわからないということだと思う。</li> <li>●高等学校はまだGIGA環境が整っていないためネット環境を懸念する声もある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭科という教科はプラスアルファという感覚だったが、人生を学ぶという形で、すごくよい授業に感じた。</li> <li>●法律がかわり、高3で成人という形になるので、こういった人生を学ぶような教科を、高1、高2で学ぶという意識が少し薄い、できれば高3で学べるといい。高2から文系、理系に分かれてくる学校も多いので、選択肢のある中で学びということを考えてみると、ちょっと高1でやっているのはもったいない。</li> <li>●二次元コードが教科書に載っているが、授業中にスマホでとるわけにはいかないので、タブレット等を使うと思うが、高校の方はまだ、タブレットが全市立学校にまわっていないので、早急に対応してもらいたい。</li> <li>●二次元コードがついていることで、家庭学習にも繋がっているのではないか。</li> <li>●二次元コードの利用については、各家庭がスマホを持っているということが前提になっていくのではないか。</li> </ul>  |

|         | 学識者分科会   | 校長分科会  | 保護者分科会   |
|---------|--|--|--|
| 特別支援学校等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●いくつかの教科書を見る中で、文字を大きくしたりだとか、簡略化したりだとか、要約したりだとかして、子どもたちが見て楽しい、学んでみたいと引き付けるのがすごく大事なのだと感じた。</li> <li>●シールが添付されていたり、折り込みになっていたりだとか、多くの場面で工夫されている教科書があった。色がすごくカラフルにできているが、色の識別が難しい場合もあるので、点字教科書等も必要。</li> <li>●子供たちに必要な教育にふさわしい教科書を選出するのがすごく大事。</li> <li>●保護者の意見としては、検定教科書がほしいと言っているけど、生徒には違う形の教科書が適しているということもある。</li> <li>●例えば家電製品等が載っていて、それを学習するのも、ひとつ時計にあたって、壁時計の丸い時計もあればデジタル時計もある、掃除機も昔の形の掃除機もあれば、今、現代、どんどん製品が変わってきているので、やはり時代に合った教科書にするためには、そのような見せ方もどんどん変えていくというのも大切だ。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●以前と随分と変わった印象を受ける、漫画的なものも取り入れられていて、子どもが親しみやすいのではないかな。</li> <li>●高校と同じように、課題に実用性を感じる、例えばカレーを作ろうということでは、実際にカレーのレシピが載っていたり、実用性を感じる。</li> <li>●9条本がとても印象に残る、大変わかりやすく丁寧につくってある、ゆっくり学ぶということに適している。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●音楽について、支援学校ではピアノ等を弾きながらやっている場合が多いが、ユーチューブ等で見ることができると、著作権の問題もあるが、学校で学んだことを、子どもたちが家庭に帰って聴けるということにつながるのではないかな、学校と家のバリアをなくすということが、子どもたちの学びや楽しみにつながるのではないかな。</li> <li>●教科だけではなくて、学校での作法、所作、学び方も身につく感じがよい。学び方を示すとか、こういった形で記録を残すということが大事。</li> <li>●支援学校のお子さん、表紙はすごく分厚いほうが好きな児童生徒や、ペラペラペラとめくる音が好きな児童生徒がいて、そういった本に触れていくという中でモチベーションに繋がっていくと考える。</li> </ul> |
| 全体      | <ul style="list-style-type: none"> <li>●先生方は、目の前の子どもさんたちをしっかりと見たうえで、調査研究に臨まれて、教科書を選んでいただいているなど感じる。採択にあたっては、現行の教科書検定という制度の中で、各学校の先生方が真摯に子どもたちと向き合いながら、選んでくださった教科書ですので、現場の声を大事にして採択されるのがいいのかなと感じる。</li> <li>●新聞等の報道の中で、歴史認識に関して、非常に議論がなされていたところ。教育委員会の中で教科書を採択していただくときには、一線を引いていただいて、しっかりと、川崎がこれまで大事にしてきたこと目の前の子どもにとって、どんな教科書がふさわしいんだろうか、その点に軸足を置いていただいて、多面的に、そして多角的に、そして公平に公正に、教科書を選んでいただきたい。</li> <li>●政治的な色合いの中で対立軸がいくつか出ていると思うが、それを中心に議論して教科書はどうかのこのという選び方ではなくて、バランスのとれた教科書、子どもたちにとって何がベストなのか、そんな観点を大事にしていただきたい。</li> <li>●現場の先生方が、目の前の子どもの実態を一番わかっている。川崎はどんな子どもたちに育てたいか、どんな教育理念のもと、子どもたちと向き合っているのかということを中心にしながら、現場の先生方の声を大事にしていただきたい。校内の調査研究会、あるいは校内の採択候補検討委員会等で、各学校で真摯に時間をかけながら向き合っていた中で、どんな意見が先生方の中で出てきたのかということも、とても大事である。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●中学校の二つの教科書を見ると、こうも違うのかと、特色の違いを感じた。どちらも文科省の検定をとってきたというのには尊重しなければいけない。そのうえで、川崎で大事にしていること、多面的、多角的に、社会科に限ったことではなく、どの教科においても、一面的に見るのではなくて、色々な方向から見ようということが大事なことなので、そういったことを大事にしていける教科書がよいのかなと感じた。</li> <li>●今回、高校の教科書が変わっている。大学の教育改革だとか、あるいは高校教育改革、入試改革のなかで、これまで高校の中で行われてきた、どちらかという暗記中心だとか、覚えるのが中心の教育をどんどん変えていかなければ、今後対応できないということも、新しい学習指導要領の考え方と合わせて、高校の方にも入っていると思う。歴史にかかわらず、いろんなものの中で、いろんな考え方があるということをお互いが認めながら、よりよいものを築いていく、そういうことがこれから非常に重視されてくる。教科書が、あくまでも中立であったり、多面的だったり、多角的なものが見方ができるようであれば、それぞれのものが見方が、お互い認め合うような考え方に進んで行かない。できるだけ川崎の、いままで大事にしてきた教育みたいなものが、高校の教科書の採択においても大切にもらえるといい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●中学校の歴史が今回かわるということだったので、私費で購入し保護者委員の何人かと、情報共有しながら読ませてもらったが、教科書を見る時間をより確保してもらいたい。</li> <li>●各教科っていうのは単元ごとにあるわけではなく、根っこで繋がっていると思う。その中で空間的に繋がっているようなものが多いと思う。時間まで含めて繋がっているという、やっぱり歴史って大きな目で見るとそういう部分もあるので、そんな見方が子どもたちができるようになったらいいなと感じた。</li> </ul>  |

|    | 学識者分科会   | 校長分科会  | 保護者分科会 |
|----|--|--|--------|
| 全体 | <p>●「使用教科用図書採択の観点」のような資料が、すごく充実してきたなど感じる。これをしっかり書かないと、教科書採択ができないのではないかと思う。各学校がしっかりとこれを書いて、そして自分たちは、こんな子どもを育てたいんだと自覚して、教科書を選ぶということは、すごく大事なステップだと思うので、とても、これが充実してきたということは、とってもいいなと思う</p> | <p>●今回の教科書を見ていくうえで、ICT、二次元コード、また、SDGsも、今の社会の中でとっても大切な部分であり、二次元コードがあれば、SDGsの話題が出ていけば、それでひとつ上の教科書になるのかというと、またそこは違うので、それも吟味しながら、よりよい教科書っていうのを採択していく必要がある。</p> |        |